

「初級中国語文法」教授法再考

—— “有” からなる「連動文」と「兼語文」 ——

神 谷 智 幸

1. 大学における中国語教育の現状

文部科学省が今年公開した 2020〔令和 2〕年度の調査報告（文部科学省 2023）によると、中国語を教えている大学は、調査全体の 80.2% に上る（751 大学中 602 大学の学部：内訳は国立 78 大学、公立 68 大学、私立 456 大学）。同調査において、中国語は過去 15 年間 80% 前後という高い割合を保持しているものの、近年ではカリキュラムの改編や再編等により、必修科目のコマ数が減少した大学も出ているという（『中国 21』2023 年 3 月号 :9）。また、周知のように、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大以降、大学教育を取り巻く環境は激変した。「窮すれば通ず」という言葉のごとく、授業の ICT（Information and Communication Technology）活用が一気に進み、各種の LMS（Learning Management System）やオンライン会議システムが今やごく当たり前のツールとなっている。いち早く、「昨今の学習時間の減少等による教育条件の多様化や学習者・教授者の多様化という教育環境の時代的变化」に対応するために、使用者目線に立った「中国語教育文法（pedagogical grammar）」を設計すべきだという新たな研究も現れている（鈴木 2017、西 2021 など）。「ソフト」と「ハード」の両面で教育環境が変化している今こそ、これからの中国語教育のありかたについて活発に議論が交わされるべきだろう。本稿では、大学における中国語教育が抱える問題の一端について、これまでの研究とはやや異なった視点から解決方法を考えてみたい。

初級段階で学ぶべき文法項目については、中国語教育学会が 2007 年に『中

国語初級段階学習指導ガイドライン』(以降『ガイドライン』)を示している。ちなみに『ガイドライン』では、「初級段階」を大学の第二外国語として週2回、2年間で学ぶ240時間の課程と設定している(本稿はこの「初級段階」に学ぶ文法を「初級中国語文法」と呼ぶ)。2009年には『ガイドライン』に準拠した文法書も出版されている(興水優・島田亜美著『中国語わかる文法』、以降『わかる』)。ただ一方では、大学における中国語教育が抱える問題として「全国統一の到達目標や文法項目など指導要領が定まっていない」(西2021:12)という指摘が依然としてなされている。大学ごとに見れば、全学共通の統一教科書を編纂し使用するなど、到達目標や指導要領が示されているが、ある「初級中国語」の文法項目をいつ学ぶか、どう教えるかについては、教材ごとに多種多様であり、共通の見解に至っていないというのが現状に近いと思われる。本稿は(教材ごとの個性は尊重しつつ)「初級中国語文法」のうち、2000年以降の20年ほどの間に研究が進展した文法項目は現行の解説を見直し、中国語の本質や真理により迫ったかたちで、より分かりやすい(と同時に可能であればより興味を引く)新たな教え方へと更新すべきだと考える。本稿を執筆するもう一つの動機としては、大学における中国語科目を担当する教員の大部分が中国語学以外の広範な専門領域を持つという事情がある。従来の記事と近年の研究成果の関係を整理することで、中国語研究における専門知識と中国語教育における教授法との間を橋渡しすることを目指したい。

2. “有”からなる「連動文」と「兼語文」

2.1. 従来の分析と『わかる』の解説

2000年以降に発表された中国語文法研究における主要な研究成果をすべて挙げるのは枚挙に暇がないが、本稿では、「初級中国語文法」において解説を更新すべき具体的な事例として、“有”からなる「連動文」や「兼語文」と呼ばれてきた項目を取り上げる。従来の分析と『わかる』の解説を整理しつつ、近年の研究成果を反映した新たな教え方を検討してゆく。

現代中国語において“有”は「所有」 [= (1)] や「存在」 [= (2)] を表す。

- (1) 我有两个孩子。[私は2人子どもがいる。]
- (2) 树上有两只小鸟。[木に2羽の小鳥がいる。]

本稿が取り上げるのは、“有”からなる構文が「連動文」 [= (3)] や「兼語文」 [= (4)] の一種として位置付けられる以下のような例である（「連動文」と「兼語文」については従来の定義に従う）。

- (3) 我还有很多事情要做呢。[(私は) やらなきゃならないことがまだたくさんあるんだよ。]
- (4) 屋里有人说话。[部屋の中で誰かが話している。]

(1) から (4) は《現代汉语八百词》:630-631, 訳は引用者)

代表的な先行研究としては、朱德熙 1982:168-170 が“有”からなるこの種の形式を「連述構造」(原文は“连谓结构”)と呼び、(A) から (F) の6タイプを挙げ、それぞれのタイプについて説明を加えている。

- (5) (A) 有可能下雨。[雨が降る可能性がある。]
- (B) 有事情做。[やることがある。]
- (C) 有个青年叫小晚。[シャオワンという青年がいる/いた。]
- (D) 有话慢慢说。[言いたいことがあればじっくり話してください。]
- (E) 有病不能来。[病気で来られない。]
- (F) 有三尺长。[三尺の長さがある。] (朱德熙 1982:168, 訳は引用者)

朱德熙 1982 ではきわめて重要な指摘がいくつもなされているが、本稿の議論と関わるのは主に ABC のタイプに関する次の3点である。① A の“有 + N + V”は、多くが“有 + V + 的 + N”に言い換え可能である；② B は、名詞が後続

する等により D (条件関係の複文) に解釈され得る；③“N”には一般に(数)量詞を付加する必要がある(ただし“人”のみ例外)。この3点について、朱徳熙 1982 が挙げる具体例を用いて補足すると、①は“有办法解决～有解决的办法[解決する方法がある]”のような例を指している。②については、Bは“有”の目的語が二つ目の動詞の意味上の受け手でもある所謂「同賓構造」を指すが、“有话说[言うこと(話)がある]”が、“有话慢慢说[話があればじっくり話してください]”では、ほぼ同じ構成要素でも(D)の解釈になるということである。③については、Cの“有一个青年叫小晚”は量詞“个”を落とし、“*有青年叫小晚”とすることができない(*は文法的に成立しないことを表す)。ただし、“人”のみは例外的に量詞“个”のない文が成立すると指摘している(“有个人丢了把斧子”[ある人が斧をなくした。]→“有人丢了把斧子”)。

『ガイドライン』や『わかる』は、この朱徳熙 1982 の分析を全面的に採用したものだと思われる。『わかる』では連動文の下位分類として、「第一の成分の動詞が“有”である連動文」と名付け、以下の2つのタイプに分けている(便宜的にそれぞれ「タイプ1」「タイプ2」と呼び分けておく)。

(6) 【タイプ1】“有”+賓語 a (具象名詞あるいは抽象名詞)+動詞 2 (+賓語 b)

(7) 【タイプ2】“有”+賓語 a (人・物=動詞 2 の動作主)+動詞 2 (+賓語 b)

それぞれのタイプについて、肯定文・否定文・疑問文を1例ずつ挙げている。(6)の「タイプ1」には(8a)(8b)(8c)の例を挙げている。

(8a) 有饭吃。[食べるご飯がある。]

(8b) 没有工夫玩儿。[遊ぶひまがない。]

(8c) 你有没有机会去中国？[君は中国に行く機会がありますか。]

「タイプ1」は内部でさらに「(“有”)の賓語が具象名詞で物を表し、第二の成分である動詞の受け手になる、という組み立て」 [= (8a)]、「有」がその賓語であ

る抽象名詞とむすんで、助動詞(能願動詞)に相当する意味を表す組み立て」 [= (8b) (8c)] の二つの下位類に分かれるとしている(なお、この「具象名詞」と「抽象名詞」という分類基準も朱徳熙 1982:168-169 に従ったものだと思う)。

「タイプ 2」の例としては以下 (9a) (9b) (9c) を挙げている。

(9a) 我有一个朋友会说广东话。[私には広東語を話せる友人が 1 人いる。]

(9b) 这儿没有人学汉语。[ここには中国語を学ぶ者はいない。]

(9c) 有没有车到医院? [病院へ行く車はありますか。] ((6) から (9) は『わかる』: 89-91)

「タイプ 2」については「連動文の第一の成分である動詞句“有”+賓語(人・物を表す名詞)」が人や事物の存在を述べ、その後には前置された動詞句の賓語を動作主あるいは行為者として第二の成分である動詞(句)を続ける、という組み立て」 [= (9a) (9b) (9c)] と解説が加えられている。ちなみに、『ガイドライン』(『わかる』:397) では異なる例が挙げられており、タイプ 2 の例として、(9d) “有一个学生来找你[あなたを尋ねにきた学生が一人いた]” と (9e) “今天没有人来[今日は来る人がいなかった/今日はだれも来なかった]” を挙げている(例文の訳は引用者による)。

朱徳熙 1982 の分析を忠実に反映した『わかる』を典型とする現行の解説には、部分的には同意するが、学習者への教え方——たとえば (9a) (9b) (9c) と『ガイドライン』((9d) (9e)) の例の共通点と相違点など——を含め、なお検討する余地があると思われる。

2.2. “有”構文の表す〈存在〉の新たな捉え方

2009 年の日本中国語学会第 59 回全国大会のシンポジウム「存在表現の類型と歴史」において、中国語の各時代における存在文の諸相に関して新たな知見が発表された(上古中国語については大西 2011・2013、現代中国語については木村 2011a・2011c・2012 参照、一般読者向けには大西 2014 と木村 2017 がある)。この研究プロジェクトのメンバーは、各時代の存在表現を丹念に検

証することによって、歴史的に見て「所有」から「存在」（現代中国語の「時空間存在文」）へと拡張したことを初めて明らかにした。木村 2011c では現代中国語において“有”を述語に用いる文（“有”構文）を A から H の 8 つのタイプに分けている。

(10) 【特定の時空間におけるリアルな具体物の存在】

A 从前有座山，山上住着土匪。有一天……[昔、ある山がありまして、山には匪賊が住んでいました。ある日、……]

【特定の時空間におけるリアルな状況の存在】

B 下班出去的时候才发现外面有雪。[仕事を終えて帰宅するときようやく雪に気づいた。]

【構造体における構成部品の存在】

C 这把伞有 42 支伞骨。[この傘には 42 本の骨がある。]

【範疇における成員の存在】D 中国有熊猫。[中国にはパンダがいる。]

【事物における相対的關係者の存在】

E 我有三个表哥。[私には従兄が 3 人いる。]

【所有物としての存在】F 爸爸有两台电脑。[父はパソコンを 2 台持っている。]

【事物における質的屬性の存在】

G 吸烟有这些坏处。[喫煙にはこれだけの弊害がある。]

【事物における量的屬性の存在】H 他有七十多岁。[彼は 70 過ぎだ。]

(木村 2011c の分類を基に引用者が作成)

木村 2011c では、「知覚」と「知識」という対立を取り入れ、“有”構文が表す〈存在〉について既存の枠組みを超えた新たな分類を行っている。さらに、“有”の目的語が(数)量詞を伴う際の機能論的な特性についても詳細に分析されている。

本稿では、“有”構文の新たな研究成果を取り入れることで、“NP1 + 有 + NP2 + VP”という一つの構文が、「連動文」だけでなく「兼語文」を表し、非既知の対象である〈ヒト〉や〈モノ〉の存在について「(恒常的な)属性」から「(一時

的な)描写」まで、かなり幅のある、多種多様な意味を表し得ることについて、よりよく説明、理解できることを主張したい。

以下、本稿で扱う“有”からなる構文を“NP1 + 有 + NP2 + VP”と表記し、一般に「連動文 (Serial Verb Construction)」と呼ばれる形式 (朱徳熙 1982 の A と B、『わかる』の「タイプ 1」) を“有”連動文、「兼語文 (Pivotal Construction)」(朱徳熙 1982 の C、『わかる』の「タイプ 2」) と呼ばれる形式を“有”兼語文と呼ぶ。

3. 「有」兼語文

3.1. 「有」連動文」「有」兼語文の本質的意味と問題の所在

現行の教材の中で「有」連動文(「有」兼語文)に関するもっとも簡潔な解説として以下が挙げられる。

- (11) 連動文の述語に“有”を用い、「X + “有” + Y + 動詞(句)」のかたちで、「X (特定の人・場所・時間) に～する Y がいる／ある」という意味を表す。(引用者注: X は「NP1」、Y は「NP2」、動詞(句)は「VP」に当たる。木村・宮本 2014:77)

これが“NP1 + 有 + NP2 + VP”というかたちの構文に共通する本質的な意味だと言ってよい。「NP1 + 有 + NP2 + VP」は、述語論理学において「(議論領域の中に) ある x が存在する」ことを主張する「存在量化」の表現、「存在文」の論理構造にほぼ一致する。例えば (12a)「怠け者がいる」の論理構造は (12b) (12c) と書くことができる(野矢 2006 第 6 章)。

(12a) 怠け者がいる

(12b) ある x が存在し [x は怠け者だ]

(12c) F であるものが存在する……ある x が存在し [x は F である]

本稿では、「NP1 + 有 + NP2 + VP」の本質的な意味をこのように捉え、「有」

兼語文」に関する具体的な問題として2点を扱う。1点目は朱徳熙 1982 が指摘した現象である。再掲する。

(13) [= (5C)] 有个青年叫小晚。[シャオワンという青年がいた。]

(13') * 有青年叫小晚。

(14) 有个人丢了把斧子。[ある人が斧をなくした。]

(14') 有人丢了把斧子。((13) (14) は朱徳熙 1982:168)

すなわち、(13) “有个青年叫小晚”と(14) “有个人丢了把斧子 / 有人丢了把斧子”のふるまいの違いがなぜ起こるかという問題である。

2点目は(14')に見られるような“有人”をどう扱うかという点であり、“有”兼語文」全体に関わる大きな問題となる。この問題を考える上では、木村 1991 が示唆に富む。以降の分析とも密接に関わるため要点をまとめておくと、木村 1991 では“有人”には二種の意味があることを述べている(「“有人₁”と“有人₂”と名付けている)、“有人₁”と“有人₂”の意味、それぞれの例を挙げている[(15) (16) (17)]。

(15) 有人₁ : ある特定の人物の存在を言い立てるもの

有人₂ : 部分的な存在を対比的に言い立てるもの

(16a) 【有人₁】有人₁ 给我买了戏票。[ある人が私に芝居の切符を買ってくれた。]

(16b) 【有人₁】有人₁ 敲门呢。[誰かがノックしているよ。]

(17) 【有人₂】有人₂ 很胖，有人不胖。[ある人は太っており、ある人は太っていない]

(木村 1991:165-168 の記述を基に引用者が作成)

さらに、“有人₁”には「述語成分に“是”や形容詞(句)が立てない」という構文的特徴があり、その理由を(18)のように説明している(やや長文となるが引用する)。もう一つ特徴として、“人”以外の名詞は“有”と直接結合して“有人₁”と同種の表現を構成すること」ができないことを述べ、(19a) (19b) の例を挙げ

ている。

- (18) * 有人₁ 是大学毕业的。や * 有人₁ 非常聪明。などは明らかに不自然です(もし不自然でないとするれば、その場合の“有人”は後述の“有人₂”と理解すべきです)。その理由は、“是”や形容詞(句)を述語とする文が、一般に、既知の「主題」に対して「解説」を与えることを意図したものであるにもかかわらず、その「主題」を誰とは明かさずにいきなり「* ある人が大卒だ。」「* 誰かがとても賢い。」などと不定のままを持ち出されたのでは、いったい誰についての「解説」なのか訳が分からず、その文自体無意味なものになってしまうからです。

(木村 1991:166-167、引用者により句読点を改変)

(19a) * 有学生给我买了戏票。

(19b) 有[一]个学生给我买了戏票。[ある(ひとりの)学生が私に切符を買ってくれた。]

(木村 1991:167)

本稿は“有人”が多様な意味を表すメカニズムについても分析を行う。

3.2. 「属性型」

「“有”兼語文」については、上述の研究成果を取り入れつつ、本稿で改めて実例調査を行った結果、少なくとも5つのタイプに分類できることが明らかになった。

一つ目は(13)“有个青年叫小晚”のようなタイプである。呂叔湘 1942 [1990:99-101] が夙に“介绍作用”[紹介の機能]を果たしていると指摘して以降、Li&Thompson 1989:611-621 では“Presentative Sentences”(中国語訳文は“引介句[導入文]”)と呼ばれる文である(言語学では“presentational sentence”「提示文」と呼ばれる)。杉村 1994:131 は“有”は各文において後に続く名詞表現を話の中に導入する役目を果たしている」と指摘し、(20)などの用例を挙げている。

- (20) 中国古代有一个大数学家叫祖冲之。[中国に昔、祖冲之という名の大数学者がいた。]
(杉村 1994:131)

本稿の調査では以下のような例が得られた。以下 3 例挙げる。

- (21) 毛主席语重心长地讲… (中略) …

接着，他又指出，“人总是要死的，但死的意义有不同。中国古时候有个文学家叫做司马迁的说过：‘人固有一死，或重于泰山，或轻于鸿毛。’

[毛主席は真心をこめて語った。… (中略) …彼はさらに続けて「……中国の古代に司馬遷という文学者がいて、こう言っている：人の死はむろん死ぬが、その死は泰山より重いこともあれば、鳥の羽毛より軽いこともある。」と指摘した。]

(CCL コーパス《人民日报》1994 年第 3 季度)

- (22) 我到北京文联报到，副秘书长王松声叫我随一位年轻同志先去熟悉环境，安排住处。那位同志抢过我的背包说：“来，你就跟我住一间屋好了。咱们文联的团员也都编在一个小组，我是小组长，名叫黄真，原名黄宗淮。”我笑道：“黄宗淮！有意思，我有个同志叫黄宗江，一江一淮很像哥俩。”他说：“那是我大哥，宗英是我妹妹。”

[……「私は班長で、名前は黄真、元の名は黄宗淮と言います。」私は「黄宗淮！面白いですね。私には黄宗江という同志がいるのですが、江と淮で二人兄弟のようですね」と笑顔で言った。彼は「それは私の一番上の兄で、宗英が私の妹です」と言った。]

(邓友梅 < 好您哪，宗江大哥 >)

- (23) 王唯一还有个叔伯弟弟叫王柬芝，但从他们的父辈起就分了家。

[王唯一はもうひとり王柬芝といういとこがいたが、父の代からもう分家していた。]

(冯德英《苦菜花》)

上掲の例では「“NP1 + 有 + NP2 + VP”」の NP1 を固有名詞 (地名か人名) や人称代名詞が担っている。(22) (23) の “NP2” は “同志” や “叔伯弟弟” は NP1 との関係を表す「関係名詞」であり、後続する VP を除くと、(10) で挙げた木村

2011c の分類では「事物における相対的關係者の存在」E“我有三个表弟[私には従兄が3人いる。]”に当たることが分かる(但しこのタイプの例がすべてEだと言うわけではない)。後続する述語が“叫”以外の例としては(24)のような例を検出した。

(24) 1979年, 他首次回国探亲, 受到政府的热情招待。可他有一个弟弟在兰州工作, 却盼望能见到我, 曾到处找寻。

[……しかし、(彼には)蘭州で働いている弟が(いるのだが)、私に会えるようお願い、方々で探し回ったという。](CCL コーパス《作家文摘》1994年)

(24)は(ひとりの)弟がどこで働いているかを述べており、(21)から(24)に共通して見られるのは、“NP1 + 有 + NP2 + VP”の“VP”が“NP2”の「属性」を記述しているという点である。言い換えれば、NP2の存在とVPが「昨日・今日」と言った時間的な限定性のない静態的・恒常的な関係だということである。一般にNP2は発話現場で知覚している存在でなく、談話領域や観念領域に〈存在〉することから、本稿はこのタイプを「知識」的な用法だと見做す。このタイプは直後に名前や働いている場所などを述べているように、“NP2”は話し手が良く知る〈ヒト〉(や〈モノ〉)だということができるが、“NP2”を談話領域に新規に導入する際、聞き手(読み手)の知らない情報に配慮して言語形式を調整し「非既知」の対象としてマークしたものだと考えられる(田窪1990)。それゆえ、このタイプにおいて“有”によって導入された〈ヒト〉は、後続する動詞句にとっては既知の「主題」として働くと考えられる。

本稿の初歩的な調査によれば、このタイプにはカンマが入る实例も散見された。(25)は番組のナレーションである(“叫”の前までで字幕が切り替わるが、ポーズはかなり短い)。(25)は「しゃれことばの内容」、(26)「年齢、名前」、(27)は「職場」を表している。

(25) 除此之外老北京还有一句歇后语 i_1 ϕ_1 叫“兔儿爷折跟头 窝了犄角”又该怎

么解释呢？[このほか、古くからの北京には「兔兎爺のトンボ返り——耳が折れる（失敗する）」というしゃれことばがある。※引用者注：「兔兎爺」とは中秋節に供え物にしたり、子どものおもちゃにする、頭がウサギ、体が人間の泥人形（『白水社中国語辞典』）

（《这里是北京》20210819）

(26) 我有个邻居_i， ϕ_i 今年十二岁，叫做“没头脑”

[私にはお隣さんがひとりいて、今年12歳で、「メイトウナオ」と言った。]

（任溶溶《没头脑和不高兴》）

(27) 李友：你是怎么找到的？

王朋：我有一个朋友_i， ϕ_i 在图书馆工作。他_i帮我找，我们一起找了两个小时才找到。[私には友人がひとり（いて、）図書館で働いている。……]

（INTEGRATED CHINESE・Level 1 Part2・Workbook:82）

Li&Thompson1989:617では、“我有一个妹妹很喜欢看电影[私には映画が大好きな妹がひとりいる]”と“我有一个妹妹，很喜欢看电影”を比べ、2つの文が並列されており中断せず読むかどうかで意味上は変わらないと述べている。本稿がインフォーマントに確認したところ、カンマの有無には特に違いが感じられないという回答を得た（後節で導入した対象を人称代名詞によって照応する“我有一个朋友_i，他_i在图书馆工作。”がより良いという意見もあった）。袁毓林等2009:303-304は、“他有两套房子在北京郊区[彼は北京郊外に2軒家を持っている]”の含意として「全体」（全部で2軒）と「部分」（ほかに家を所有している）の二つの読みがあるのに対し、“他有两套房子”は通常「全体」という解釈しかないという両者の違いを指摘しており、意味上完全に同一とは言い切れない面もあると思われる。本稿はこのタイプを「有」兼語文の1タイプと見做し、P1「属性型」と呼ぶ（Pは“Pivotal Construction”）。

このように考えることで朱德熙1982の指摘する現象にも答えることができる。数量詞が「個体化(individualization)機能」(大河内1985)を果たすことは広く知られているが、木村2012:322-324は“有”構文(時空間存在文)の運用されるコンテクストを機能論的観点から観察し、「リアルな時空間上における場

の情景を具象的に叙述する叙景的用法」と「非既知の事物を談話のなかに新規に導入し、叙述の主題に据える新規主題設定用法」があると述べている。これらの用法では数量詞の付加が一際強く求められ、以下の(28)から数量詞を取り除くと不自然だと述べている。

(28a) 从前有个小朋友，他的眼睛里面起麦粒肿了，于是他去医院动手术。

[昔、ひとりのおともだちがいて、彼の目にもものもらいができてしまったので、病院に手術しに行くことになった。]

(28b) 从前有小朋友，他的眼睛里面起麦粒肿了，于是他去医院动手术。

(木村 2012:323-324、訳は引用者)

つまり、朱德熙 1982 の“有个青年叫小晚。”においても、“有个青年”が後続叙述(“叫小晚”)にとつての主題となることから、(数)量詞を落とすことが難しいと答えられる。なお、この「属性型」では、木村 1991 で指摘された“有人₁”の構文の特徴とは異なり、“是”や形容詞(句)が述語として立つ(29)(30)のような例も観察され、本稿の分類の傍証となる。

(29) 那位先生的信是：“我有一个侄子是音乐家，他不知道怎样给他作的歌剧写序曲，您曾写过这么多歌剧序曲，是不是可以给出主意？”

[その方の手紙には「私には音楽家の甥がひとりおり、どうやって歌劇に序曲を書けばよいかかわからないでいます。……」](CCL コーパス《读者(合订本)》)

(30) 荒木在北京住过很久，国语说得比她好。之雍告诉她他在北京隔壁邻居有个女孩子很调皮，荒木常在院子里隔著墙跟她闹著玩，終於恋爱了，但是她家里当然通不过。

[荒木は北京で長く住んだことがあり、中国語は彼女より堪能だった。之雍は彼が北京にいたとき隣にとてもお茶目な女の子がいて、荒木はよく壁越しに彼女とふざけて遊び、とうとう恋人となったが、彼女の家では当然認められなかったと伝えた。]

(张爱玲《小团圆》)

3.3. 「描写型」と「体験型」

次のタイプは、“NP2”の〈存在〉を発話時に「知覚」しているものであり、以下のような例が典型的だと考えられる。

(31a) 前面有个精瘦的年轻男人正在刷树干，穿着深蓝色的工装，背上印着一家物业公司的 LOGO，身边搁着一个白灰桶。这种场景每年冬天都会重现，她却没有特别留意过。于是上前。

师傅，您这是干什么呢？

刷白。男人说，……（中略）……

(31b) 刚才看见有师傅给树干刷白，说是杀菌防冻，这电线杆也得杀菌防冻啊？

[a. 前方にはほっそりとした男の人が木の幹を塗っていた。紺色の作業着を着て、背中にはある不動産会社のロゴがプリントされており、そばには石灰の入ったバケツが置かれていた。……「職人さん、なにをしているんですか。」「石灰を塗ってます。」と男が答えた。……（中略）……

b. さっきある作業員が木の幹に白いペンキを塗るのを見たときは殺菌と凍結防止のためと言っていたが、この電信柱も殺菌と凍結防止をしなければならないのか。]

（乔叶<头条大事>）

(32) 在我们曼庄边防工作站的营房边有一棵树长得神奇，它的根露出地面生长，形成了两个驼峰，[我々の曼庄では边境守備業務の兵営側に奇妙な育ち方をした一本の木があり、その根は地面に現れており、らくだのふたつのこぶを形成していた。]

（CCL コーパス《人民日报》2000 年）

(31a) は、あるひとりの「ほっそりとした若い男の人」について、服装や身の回りにあるものを描いている。(31a) (32) は、ある「場」に存在する〈ヒト〉や〈モノ〉の一時的な状態を視覚的に描写している。P1 タイプの恒常的な「属性」の記述と異なることから、本稿では P2a「描写型」と呼ぶ。P1 と共通しているのは個別・具体的な特定の人物について述べており、(数) 量詞の付加の度合いが高い点である（先ほどの機能論的特性としては「叙景的用法」に当たる）。この「属性型」

や「描写型」はある特定の〈ヒト〉や〈モノ〉の存在が確立している上で述べられるタイプであり、厳密に言えば対応する否定文や疑問文がないと思われる。

ある特定の場で対象の存在を「知覚」しているという点では共通しているが、以下のような例も観察された。

(33) 有人敲门。他喊了一声“请进”。

[誰かがノックする。彼は「どうぞ」と声を張り上げた。](朱秀梅《永不妥协》)

(34) 没头脑正在想心事，只听见窗外有人叫他：“没头脑，快出来，有好玩儿的！出来，快点！”

[メイトウナオが考え事をしていると、窓の外から誰かが自分のことを呼んでいるのが聞こえた。……](任溶溶《没头脑和不高兴》)

(35) 可惜好景不长，老王家属不肯再往下住这宅子了，闹着要搬家。原来她白天一个人在家，老是觉得有人在地板上走，吓人得很，可是晚上等老王下班回家，却一点也听不到声音了，真是出奇。

[……というのも彼女が日中一人で家にいると、ずっと誰かが床を歩いている気がしていて、ひどく怖かったからだという。](范小青<旧事一大堆>)

このタイプの特徴は木村 1991 が指摘するように、ある個別の人ではあるものの、話し手が特定できない不特定指示 (non-specific) の動作主であるという点である(この点で上記の P1 と P2a タイプとは異なる)。(33) のように時空間を表す語がない場合は、話し手(書き手)にとっての「いま・ここ・わたし」を基準としている。(34) や (35) のように、“听见[聞こえる]” や “觉得[思う]” といった知覚(聴覚)や感覚を表す動詞句の目的語(内容節)に“有人”が用いられている(王亚新 2017:350 でも言及されている)。このような環境では先の(31b)の“有师傅”や次の(36)の“有男人”のように、“人”以外の名詞が直接結合する例が見られる。

(36) 那天没见到老铁，青城出来带上了门，我只听见门后有男人在咳嗽。……

[その日鉄氏には会えなかった。青城が出てきて後ろ手でドアを開めた。私はドアの向こう側で誰か男の人が咳をしているのだけが聞こえた。](徐則臣<青城>)

ドアを隔てて「声」を聞いたとき、特定のユニークな対象が思い浮かばなくとも、性別までは分かるということだろう。このタイプは話し手が「誰か」を特定できないが、ある特定の時点に存在するある〈ヒト〉の動作行為によって発する「音」「声」「気配」などを直接「知覚」(体験)したという共通点がある。先述のように“有人”は多様な意味を表すが、個人の「知覚」(体験)で捉えることにより、リアルな時空間に実体として存在することが担保されると思われる。そこで、本稿では「知覚」の下位類として P2b「体験型」と呼び、一類とする。

3.4. 「報告型」

「属性型」「描写型」のいずれとも異なるタイプとしては、以下のような例が挙げられる((37)は再掲)。

(37) [= (16a)] 有人, 给我买了戏票。[ある人が私に芝居の切符を買ってくれた。]

(木村 1991:166)

木村 1991:166 では (37) の例を挙げつつ「……何らかの理由で、その人物を具体的に誰とは明言せずに(或いはできずに)不定のままに存在を言い立てようとする」と解説している。

この「何らかの理由」については、建石 2017:80 が日本語の「ある + N」を対象に取り上げ、(38) を挙げて、「話し手は当該の名詞句を知っているが、具体的な内容を述べずに「ある + N」を使用することにより、情報量を減らす形で聞き手に提示している」と説明している。

(38) ある研究所が(正義の薬)なるものを開発した。それはただ一錠飲めばよく、服用によってたちまち性格が変わって正義の人となり、しかも、その

作用は一生つづくのである。

(建石 2017:79 (14c)、例文出典は星新一『誰かさんの悪夢』)

本稿は中国語の“有 + NP”が、タイトルになり難い点(有島武郎の『或る女』の英訳は“A Certain Woman”、中国語訳は“一个女人”)、目的語には立てず、主語の位置に立ち、述語を必ずともなう点(木村 1991:166、李佳樑 2016:112)といった諸点から“有”が日本語の「ある」のように「連体詞」化しているとは見なさない立場を取るが、“有人₁”を使用する動機の一つが、聞き手への情報量を減らすという談話論的動機によるという点は共通する面があると考え(“有”が“有”兼語文の第一動詞であるか、単に「不定の動作主」のマークであるかの境界は明らかになっていないと思われるが、このタイプは空間領域や談話領域が共起しない例が散見される)。本稿ではこの「属性」「描写」いずれにも該当しない、ある特定の事態(状態)を報告するタイプをP3「報告型」と呼ぶ(この名称は木村 2012:325を参考にして)。 「報告型」のNP2は特定の〈ヒト〉を表す場合と不特定の〈ヒト〉の場合があると思われる。「報告型」のうち、NP2が特定の〈ヒト〉を指す例はほかに以下がある。

(39) 前些日子, 有位朋友快要当爸爸了, 为了表示祝贺, 我去一家金店选购礼品。

[数日前、ある友人が父親になるというので、お祝いのため、貴金属店にプレゼントを選びに行った。](CCL コーパス《人民日报》1998年)

(39) は(数)量詞が付加された例である。話し手がよく知る人物だが、談話論的要因によって、言語形式を変更していると考えられる。「属性型」「描写型」は話し手(書き手)がNP2という個別・特定の〈ヒト〉〈モノ〉を明らかにしてゆくプロセスを辿るのに対し、この「報告型」は知っている〈ヒト〉〈モノ〉を敢えて明言しないことに意味があるところに違いがある。この「報告型」は、数量詞が付加されない形式(“有人”)と、(数)量詞が付加される形式(“有位朋友”)があるということになる。

「報告型」で NP2 が不特定の〈ヒト〉を表す例としては王亜新 2017:89 が挙げる(40)や、本稿が調査した(41)のような例がある。

(40) 今天有人找你吗? [今日あなたを尋ねた人がいるか/今日誰かあなたのところを尋ねたか] (王亜新 2017:89、下線と二つ目の訳は引用者)

(41) 当时, 在仙台车站附近, 一到星期五晚上, 就有人被刺杀, 接连不断。

[当時、仙台駅付近では金曜日になると、誰かが殺されるということが続いた。]

(伊坂幸太郎《金色梦乡》)

贾黎黎・杨凯荣 2013:844-845 は日本語の「だれも～」は主体の存在を否定することで全称否定を表すが、中国語の“谁也”は対応せず、むしろ“没(有)人”が対応するという点を(42)の例で説明している。

(42J) 昼間から何度も(電話を)かけてんのに、誰もでないじゃいか!

(42C) 我从中午开始就打电话, 打了好几次, 但 * 谁也不接 / 都没人接。

(贾黎黎・杨凯荣 2013:844-845、カッコ内引用者)

このように、“有人+VP”が「だれか～」、「没(有)人+VP」が「だれも～」に部分的に対応しているという点は、日本人学習者に教える際、誤用を避けるためにも重要なポイントとなる。本稿では、連体修飾句の中に用いられる(43)のような例も検出した。

(43) 隔着钢化玻璃, 依稀能看见, 对面那栋没人住的人家, 两扇没关严的窗户抽筋似的摔来砸去, 玻璃早已碎光。[……向かいのあの誰も住んでいない家は、2枚のきちんと閉じていない窓がひきつったかのようにバタンバタンと何度もぶつかり、ガラスはとうにこなごなになっていた。] (邓一光《风很大》)

“没(有)人+住”がここでは「空室/空き家」という家の「状態」を表している。

この「報告型」には数量を述べる用法も見られる。

- (44) 1993年10月12日、顾政光临了他的办公室之后，在回路的路上，正好碰上了红花蕾大酒店的李老板，他慌慌张张地对李老板没话找话似地说：“15、16两天我有八九个人要来你这里吃饭，你可得关照一下呀。”转过头匆匆忙忙地便走了，从此再没有出现。

[……彼は李社長に無理に話題を探すかのように、「15・16日の二日間、(私には)あなたのところに食事に来たいという8,9人の人がいます、よろしくお願ひします。」とそそくさと言った。……](CCLコーパス《作家文摘》1994年A)

- (45) 去年4月，我去法国，到枫丹白露游玩，没想到古堡的展品中竟有为数不少的中国文物。枫丹白露位于巴黎东南60余公里处，是巴黎大区塞纳马恩省省会，它以枫丹白露古堡闻名世界，每年约有四五十万游客来此观光。

[……フォンテーヌブローはパリの南東60数キロに位置しており、イル＝ド＝フランス地域圏セヌ＝エ＝マルヌ県に属している。フォンテーヌブロー宮殿が世界的に有名で、毎年およそ40～50万人の観光客がここに観光に訪れる。]

(CCLコーパス《人民日报》1993年11月份)

(44)は話し手と関係する人の数を述べており、(45)は(話し手が直接訪れているが)データとして、毎年の観光客の数を述べている。

「報告型」においては、話し手の知っている特定のNP2を談話論的動機によって敢えて明言しないという場合もあった。朱德熙1982の挙げた(14)“有个人丢了把斧子。[ある人が斧をなくした。]”について、“有人丢了把斧子。”という(数)量詞を落とした形式が成立するということについては、この「報告型」においては数量詞付加が必須ではないからだと答えることができる。

3.5. 「対比型」

最後に木村1991で“有人₂”とされたタイプについて説明する。本稿の調査では(47)のような例が得られた。

(46) [= (17)] 有人₂很胖, 有人不胖。[ある人は太っており、ある人は太っていない。]

(木村 1991:165-167)

(47) 这里有人仿画, 有人仿落款, 有人仿题诗, 有人仿印鉴, 一环扣一环, 流水作业。

[ここでは絵の模倣をする者、落款の模倣をする者、題詩の模倣をする者、印鑑を模倣する者がおり、ひとつひとつの工程が連結し、流れ作業となっている。]

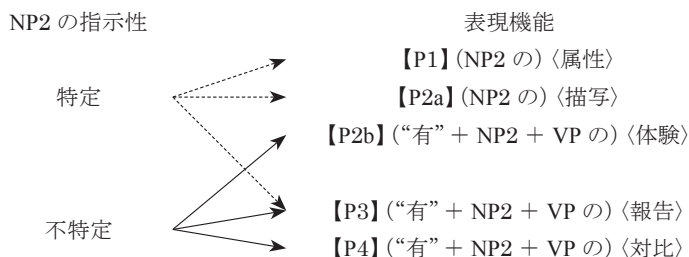
(CCL コーパス《人民日报》1994 年第 3 季度)

これらは、「部分指示」を表す“有的人～有的人”（“有的”～“有的”）と同じ意味で用いられるという（杉村 1994:135 は取り上げる対象が不定数の場合、“有些”も「部分指示」を表すことを指摘している）。本稿では P4「対比型」と呼ぶ。

以上の分析の結果、本稿は“有”兼語文を 5 タイプに分類する。NP2 の指示性とは「特定」は“有(一)个人”のような数量詞を付加した形式を典型とし、「不特定」は“有人”のような形式を典型とする。点線は、話し手が既知の個別・具体的な〈ヒト〉や〈モノ〉を知っている場合、談話上の要請により、「非既知」の言語形式へと調整しているということである。

分析の結果を〈表 1〉にまとめる。改めて『わかる』の例を見てみよう。

〈表 1〉“有”兼語文の各タイプの特徴(NP2 の指示性・談話上の言語形式調整・表現機能)



(48a) [= (9a)] 我有一个朋友会说广东话。[私には広東語を話せる友人が 1 人いる。]

(48b) [= (9b)] 这儿没有人学汉语。[ここには中国語を学ぶ者はいない。]

(48c) [= (9c)] 有没有车到医院? [病院へ行く車はありますか。] ((a) (b) (c)『わかる』: 89-91)

(48d) [= (9d)] 有一个学生来找你 [あなたを訪ねにきた学生が一人いた]

(48e) [= (9e)] 今天没有人来 [今日は来る人がいなかった] / 今日は何人も来なかった])

(『わかる』:397、例文の訳は引用者による)。

(48a) は「属性型」、(48b) (48c) (48e) は「報告型(不特定指示)」、(48d) は「報告型(特定指示)」だと分類することが可能となった。“有人”が同一形式で「特定」「不特定」「部分指示」の三者に跨る意味を表し得ることについても、「こんなふうに、存在量化は一つの場合から全体に至るまで、めいっばい不特定な量を表す表現になっています。ともかく、多いのか少ないのか分からないけれど、一つかもしれないし全部かもしれないけれど、これこれのものが存在するのだ、というわけです。」(野矢 2006:215) が解答となる。つまり、“有人+ VP”はある(ヒト)が存在するというを表すのみであり、本稿でも述べてきたように、「報告型」で話し手が明言しない場合は「特定」を表し得る。疑問文であれば「不特定」、構造的に対比されれば「部分指示」というように、使用される環境や文脈、共起する語といった様々な要因によって決まるということである。

4. 「有」連動文

「有」連動文(朱徳熙 1982 の A・B のタイプ)については、朱徳熙 1982 の分析に概ね異論はないが、本稿は 3 つに分けることを提案する。

一つ目は、朱徳熙 1982 の A タイプである。朱徳熙 1986 に夙に指摘があるように、“有”に後続する名詞句(NP)に“可能[可能性]”“希望[のぞみ]”“責任[責任]”といった抽象名詞をともなうタイプである。この種の特徴は“有+ VP + 的+ NP”と置き換えることができる点である(置き換えられる条件は林芝羽 2013 に議論がある)。朱徳熙 1986 [1999:104] は“可以、能、能够、会、应该”といった助動詞に近い働きをしていると指摘しつつ、助動詞が表す「必要性和可能性」は抽象的であるが、“有+ NP”は(事態実現の)必要性和可能性につい

て具体的な内容を表していると述べている。

- (49) 据泰国气象局预报，由于泰国大部分地区遭受干旱，近期的平均气温将高于往年。…（中略）…气象局还提醒人们，在这段时间内，由于气温升高，有些地区可能会出现热带暴风雨，并有可能下冰雹。

[……気象局は、この時期は気温上昇により、いくつかの地区では熱帯暴風雨が起きるだけでなく、雹が降る可能性があると呼び掛けています。]

(CCL コーパス《人民日报》1995年4月份)

- (50) 明年世界杯赛进行了预测，他认为上届世界杯冠军德国队与荷兰队最有希望摘取美国世界杯桂冠。

[……彼は前回王者の（西）ドイツ、オランダがアメリカワールドカップのチャンピオンを掴み取る可能性がもっとも高いと考えている。]

(CCL コーパス《人民日报》1993年12月份)

- (51) 在会见十多名印尼羽毛球精英时，梅加瓦蒂要求全国各移民局和负责移民的机构要依照法律办事，不能再要求印尼华人在出国时必须出示所谓国籍证。她指出，印尼华人只要拥有适当的身份证件，能证明自己是印尼公民，就没有责任再出示国籍证了。

[……インドネシア華人は適切な身分証明書を所持し、自身がインドネシア公民と証明できれば、国籍証を出す責任はなくなる。](CCL コーパス新华社2004年4月份新闻报道)

(49) は“可能”、(50) は“希望”、(51) は“責任”の例である。抽象名詞の個別の違いについては、たとえば方清明 2021:299 が“有+ NP”が“很”の修飾を受けることが可能かどうかテストしているように程度性を持つ類と持たない(想定しにくい)類に分けることは可能である。ただし、全面的な解決には至っていない。本稿は、(11) で引用したように「有」連動文の本質的意味は動作行為に先立ち“NP2”が存在すると考え、抽象名詞の個別の違いにはひとまず立ち入らない。「有」連動文」と「有」兼語文」との違いは、NP2 が後続する VP の主体とならず、後続する述語は基本的には未実現であるということである。

本稿ではこのタイプを S1 と呼ぶ (S は Serial Verb Construction)。木村 2017: 269-272 では、この第一動詞 (句) に〈前提 (条件)〉、第二動詞 (句) に〈動作〉という用語を与えている。

次のタイプは朱德熙 1982 では B タイプに分類された「同賓構造」である。

- (52) 同时, 必须加强灾区社会治安和防疫治病工作, 必须确保受灾群众有饭吃、有房住, 确保不发生大的疫情。

[同時に災害地区の治安と防疫に力を入れなければならない、被災者が食べるものがあり、住むところがあることを確保し、大きな感染症が起こらないようにしなければならぬ。] (CCL コーパス《報刊精選》1994 年 08)

- (53) 到了青黄不接的季节, 他没有饭吃了。

[端境 (はざかい) 期になると彼は食べるものがなくなった。]

(CCL コーパス《報刊精選》1994 年 07)

“有饭吃”や“有椅子坐”は裸名詞ということもあるが現実世界の個別・具体的な「ご飯」や「椅子」を指すものではない。本稿では S2 タイプと呼ぶ。動作行為に先立ち、“NP2”が存在するという本質的意味は共通している (同賓構造については小野 2017 を参照、太田 1957 [2013:397] では歴史的観点から見るとこの構造は二重否定から発達したことが述べられている)。

3 つ目のタイプは“有”の目的語に物質名詞“话、问题、事情”、“东西”[話・問題・こと・もの]などが用いられるタイプである。

- (54) 在告别室里见到端木遗容, 他消瘦多了。端木张开的嘴未闭上, 我想是还有话想说? 端木从小勤学, 22 岁时创作了《科尔沁旗草原》, 一举成名。

[お別れをする部屋で端木の死に顔に接したとき、彼はげっそり痩せていた。端木は開いた口がふさがっていなかった。私はまだなにか話したいことがあるのかと思った。] (CCL コーパス《人民日报》1996 年 11 月份)

- (55) “等一等。进屋去一下, 我有几句话和你说。来, 进去吧”

杏莉躊躇一霎。心想，硬不进去他会怀疑的。就硬着头皮他走进屋。

[「ちょっと待って。部屋に入ってください。あなたにすこし話すことがあります。ほら、入ってください。」……] (冯德英《苦菜花》)

- (56) 海萍说：“没事，我上天堂绝对不会拉着你的，拜拜。”正说着，手机响了，海萍一看是个陌生电话。“你好，浦东新区公安局，请您明天一早到我们这里来配合一下调查，我们几个问题要问您。”

[……「どうも。浦东新区の公安局です。明日の朝一番にこちらに来て捜査にご協力いただけませんか。いくつか伺いたいことがあります。】(六六《蜗居》)

(54) は数量詞が付加されていないが、(55) (56) は数量詞が付加されており、先述の(3) “我还有很多事情要做呢。[(私は) やらなきゃならないことがまだたくさんあるんだよ。]” もこのタイプである。S3タイプと呼ぶ。本稿の分類を以下にまとめる。

- (57) 「“有”連動文」

ある特定の領域に NP2 が存在する…… [VP する] NP2 が存在する

【S1タイプ】NP2は「抽象名詞」(“可能、希望、責任”……) 数量詞一

【S2タイプ】NP2は「物質名詞」(“飯、钱”……) 数量詞一

【S3タイプ】NP2は「物質名詞」(“话、问题、事情、东西”……) 数量詞±

先の朱德熙 1982 の B タイプに関する指摘については、“话、问题、事”、さらには“时间、机会”といった NP2 の存在が確立しておらず、その存在を仮定すると D の条件関係の複文に解釈されるということである。

(58) はそれぞれ「“有”連動文」と「“有”兼語文」であるが、このような不特定の「存在量化」を表す例においては、「お金が存在する」ということから「本を買うお金が存在する」、「人が存在する」から「手伝う人が存在する」と構造が完全に平行している。

(58a) 【“有”連動文】“有钱买书”[本を買うお金がある]

(58b) 【“有”兼語文】“有人帮忙”[手伝う人がいる]

中国語は“有”構文において〈ヒト〉と〈モノ〉を分けないという点もここにおいては共通している。ただし、「有”兼語文」は本稿の分析で確認したように、特定の NP2 や現実世界における既実現の動作行為 VP をも表し、「連動文」とは異なる方向へと拡張している。

5. おわりに

本稿では考察の結果、「有”兼語文」の表す多種多様な意味は「属性」「描写」「体験」「報告」「対比」に分けられるということを主張した。大学の中国語教育においては、基本的な“有”構文を学ぶ際に“有”の目的語の「非既知性」(知識として登録されている既知的事物のいずれとも一致同定が成り立たない対象)[木村 2012:319]と、数量詞の「個体化機能」を学ぶことが肝要となる。「有”連動文」と「有”兼語文」を学ぶ際は、本質の意味として(11)を解説し、「ある x が存在し[x は F である]」といういわば「存在量化」の表現であると伝える。「有”兼語文」が表す多種多様な機能については、本稿の〈表 1〉でまとめたように NP2 の指示性などから整理することが可能である。従来の分析と研究成果を整理したつもりであるが、一面的な見方になっている箇所があるかもしれない。更なる検討は稿を改めて行いたい。中国語学の研究と中国語教育の関係は、医療では基礎研究と臨床にも比すことができるだろう。顕著な研究成果は教育現場の担当者全員が正しくフォローし、教育現場で使いこなすことが今後のありかたとして望ましい姿であろう。

参考文献

[日本語文献]

- 愛知大学現代中国学会編 2023「座談 中国語教育の現状と課題(古川裕・丸尾誠・清原文代・中川裕三・阿部慎太郎・小川典子 司会:阿部悟)」,『中国 21』2023年3月号 Vol.58:3-30
- 木村英樹 1991「“有人”と“有的人”」,『中国語学習 Q & A101』:165-167,大修館書店
- 木村英樹 2011a「「存在文」が表す〈存在〉の意味および‘定不定’の問題」,『汉语与汉语教学研究』第2号 :3-15
- 木村英樹 2011b「中国語文法研究にみる認知言語学の成果と課題」,『中国語学』257号 :24-64
- 木村英樹 2011c「“有”構文の諸相および「時空間存在文」の特性」,『東京大学中国語中国文学研究紀要』14号 :1-29
- 木村英樹 2012「“有”構文における「時空間存在文」の特性——所有と存在」,『中国語文法の意味とかたち——「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究』:298-327,白帝社
- 木村英樹 2014a「こと・ところ・ことば ——現実をことばにする「視点」」,唐沢かおり・林徹編『人文知 1 心と言葉の迷宮』:97-118,東京大学出版会
- 木村英樹 2014b「“指称”の機能——概念、実体および有標化の観点から」,『中国語学』261号 :64-83
- 木村英樹 2017『中国語はじめの一步〔新版〕』(ちくま学芸文庫),筑摩書房
- 木村英樹・宮本徹 2014『中国語Ⅱ－汪曾祺「我的母親」他－』,放送大学教育振興会
- 興水優・島田亜美 2009『中国語わかる文法』,大修館書店
- 文部科学省 2023「大学における教育内容等の改革状況について(令和2年度)」
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1417336_00009.htm
(最終参照 2023年5月9日)

- 西香織 2021「中国語教育文法の設計とやさしい中国語」,『明治学院大学教養教育センター附属研究所年報』:12-14
- 丹羽哲也 2004「名詞句の定不定と「存否」の目的語」,『国語学』55巻2号:1-15
- 野矢茂樹 2006『入門!論理学』中公新書(1862),中央公論新社
- 王垂新 2017「中国語名詞句の「定/不定」について——日本語との対照を兼ねて」,『東洋大学人間科学総合研究所紀要』第19号:85-99
- 大河内康憲 1985「量詞の個体化機能」,『中国語学』232号:1-13(『中国語の諸相』の所収,1997年,白帝社:53-74)
- 大西克也 2011「所有から存在へ——上古中国語における「有」の拡張」,『汉语与汉语教学研究』第2号:16-31
- 大西克也 2013「上古中国語における不定行為者表現と裸名詞主語文に関する試論」,『木村英樹教授還暦記念 中国語文法論叢』:213-233,白帝社
- 大西克也 2014「古代中国人の言語風景——空間と存在の関わり」,唐沢かおり・林徹編『人文知1 心と言葉の迷宮』:209-225,東京大学出版会
- 太田辰夫 1957(2013)『中国語歴史文法(新装再版)』,朋友書店
- 小野秀樹 2002「中国語における“分類”と“描写”——名詞述語文を成立させる要因から」『未名』第20号,中文研究会(神戸大学文学部中国文学研究室)編,(『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』所収,白帝社,2008年,1-29)
- 小野秀樹 2017「中国語の連動構造における動詞句の意味的連鎖——いわゆる「手段」と「目的」の関係について」,『楊凱榮教授還暦記念論文集 中日言語研究論叢』:279-298,朝日出版社
- 定延利之 2001「情報のアクセスポイント」,『言語』12月号:64-70,大修館書店
- 定延利之 2006「心内情報の帰属と管理——現代日本語共通語「ている」のエビデンシャルな性質について」,中川正之・定延利之の編『言語に現れる世間と世界』:167-192,くろしお出版
- 杉村博文 1994『中国語文法教室』,大修館書店
- 杉村博文 2009「中国語初級段階学習指導ガイドライン」準拠の学習便覧」,『東

方』342号:28-31

鈴木慶夏 2017「中国語教育文法設計の必要性——バックワードデザインによる中国語学的文法からの解放——」『杉村博文教授退休記念 中国語学論文集』:177-196, 白帝社

田窪行則 1990「対話における知識管理について——対話モデルからみた日本語の特性」, 認知言語学会(編)『認知科学の発展 3』(『日本語の構造 推論と知識管理』所収, くろしお出版, 2010年, 147-159)

建石始 2017「連体詞「ある」の意味・機能」, 『日本語の限定詞の機能』:119-150, 日中言語文化出版社

[中国語文献・英語文献]

方清明 2021《现代汉语抽象名词研究》, 商务印书馆

贾黎黎・杨凯荣 2013<「だれも～」句式的功能扩展探析——与汉语相应句式的对比>, 《外语教学与研究》第6期, 842-853

李佳樑 2016「试论存在量化后缀“不知(道)”」, 『中国語文法研究』2016年卷, 104-120

林芝羽 2013「“有+NP+VP”和“有+VP+的+NP”结构的差异探析」, 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻編『言語科学情報』第11号:87-103

刘安春、张伯江 2004<篇章中的无定名词主语句及相关句式>, *Journal of Chinese Language and Computing*14 (2):97-107

吕叔湘 1942《中国文法要略》(又收于《吕叔湘文集 第一卷》, 商务印书馆 1990年)

吕叔湘 1999《现代汉语八百词(增订本)》, 商务印书馆

王亚新 2007<“有N+VP”和“有VP的N”之间的语义与功能差异>, 《日本现代汉语语法研究论文选》:347-361, 北京语言出版社,

袁毓林 1992<现在汉语二价名词研究>, 《语言的认知研究和计算分析》:74-102, 北京大学出版社

袁毓林、李湘、曹宏、王健 2009<“有”字句的情景分析>, 《世界汉语教学》第3

期 :291-307

朱德熙 1982《语法讲义》，商务印书馆（木村英樹、杉村博文訳『文法講義』白帝社，1997年）

朱德熙 1986<变换分析中的平行性原则>，《中国语文》第2期（又收于《朱德熙文集》第三卷，商务印书馆，1999年，98-110）

Charles Li & Sandra Thompson 1989 *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*, University of California Press (黄宣範譯『Mandarin Chinese (漢語語法)』文鶴出版有限公司，2007年)

Yuehua Liu and Tao-chung Yao Nyan-Ping Bi, Yaohua Shi, Liangyan Ge, Yefen Chen 2009 *INTEGRATED CHINESE (Third Edition) · Level 1 Part 2 · Workbook*, Cheng & Tsui Company

[辞書・データベース・例文資料]

伊地智善繼編 2002『白水社中国語辞典』，白水社

詹卫东、郭锐、谌贻荣 2003<北京大学中国语言学研究中心 CCL 语料库(规模：7亿字；时间：公元前11世纪-当代)>，(http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus)

北京电视台《这里是北京》<匠人匠心—你好，兔爷！> (2021年8月19号)，(<https://www.youtube.com/watch?v=2tbMFAxyHbl&t=1s>)

邓友梅《难忘军旅》，解放军出版社（电子版：中文在线数字出版集团股份有限公司），2005年

冯德英《苦菜花》，人民文学出版社（电子版），2005年

伊坂幸太郎（代珂译）《金色梦乡》，南海出版公司（电子版：壹页网络科技有限公司），2016年

张爱玲《小团圆》，北京十月文艺出版社（电子版：壹页网络科技有限公司），2019年
中国作协创研部选编《2019年中国短篇小说精选》，长江文艺出版社，2020年